

河原田盛美における本草学的知識から 近代勧業的実践の転換に関する研究

2年間の調査活動を終えて

研究代表者 高江洲 昌哉

河原田調査班の最終年度になる2015年度は、遠方調査では4回の南会津調査（5月、8月、10月、3月）、鳥取調査・研究会（9月）、兵庫県の調査（9月）、京都・大阪調査（2月）を実施した。その他都内の資料館（渋沢史料館、国文学研究資料館）での調査もおこなった。南会津の旧河原田家調査では、5月に南会津町町長への表敬訪問が実現し、プロジェクトの概要を説明する機会を得た。河原田文庫の「蔵書目録」を撮影し、河原田の知的基盤を確認する基礎資料を入手することができた。また、増田氏のテーマである「過疎地の殖産興業」を調べるため、河原田と縁のある実地調査（駒止峠、只見の鉦山跡など）や、関係する旧家の資料調査などを実施した。河原田は日本全国各地

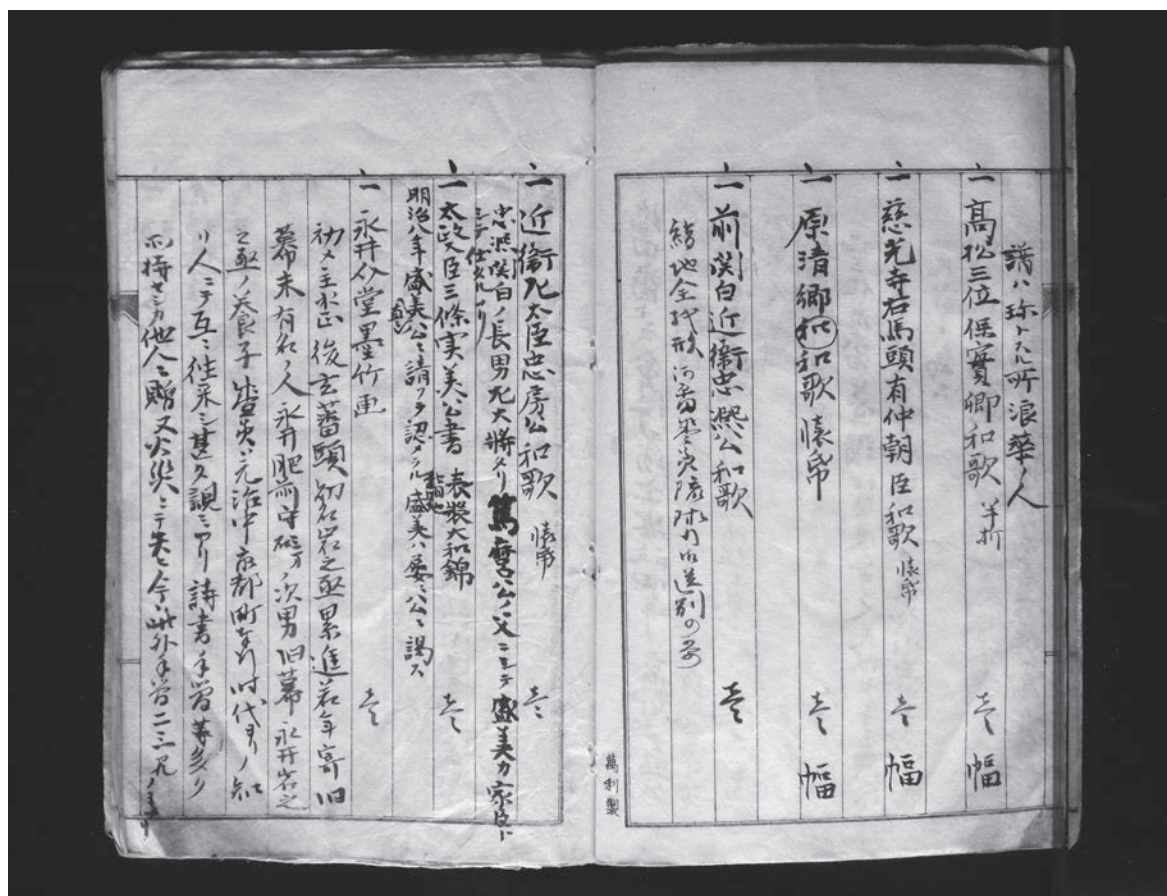


写真1 河原田家所蔵資料より

を歩き回ったが、中野氏は関西地方に絞って、河原田の水産業近代化への関わりを調べるため、9月に兵庫県立図書館など兵庫県を訪問した。次いで2月に、京都府立総合資料館・大阪府公文書館など京都・大阪での資料調査をおこなった。高江洲と中野氏は、9月に鳥取県を訪問し、外部から3人の研究者をお招きして研究会を開催した（中野泰「水産巡回教師と河原田盛美」、大嶋陽一「鳥取の珊瑚細工とその歴史」、佐々木貴文「明治日本の水産教育と大日本水産会」、伊藤康宏「19世紀末山陰の水産業振興と河原田盛美」）。鳥取では公文書館を中心に、河原田の鳥取巡回時に関する資料と当該期の鳥取県における殖産政策に関する資料を閲覧した。このように河原田の事績に関する資料調査を広範囲におこなうことができた。

また、7月には、河原田の水産業に関する知識等を比較検討するため、土井康弘氏をお招きして、「明治期における伊藤圭介の自然研究と学术交流」をタイトルとする研究会を開催した。このように、研究目的に達成するための調査と研究会を計画通りに実施することができた。

課題としては、(1)人数の問題もあり、旧河原田家資料の悉皆調査を終了することができなかった。(2)旧河原田家の資料の公開・活用については、研究班活動中に目途をつけることはできなかった点がある（この点は、継続的に話を進めることになった）。派生的展開としては、増田氏が「河原田を中心とする地域振興」の取り組みから、河原田の同志的存在であった渡部家の資料調査も実施し、「地域振興」における豪商農ネットワークの視座を豊かにすることができた点がある。

2年間という限られた期間で、一定の成果と今後の課題を明示することができたので、この場を借りて、調査メンバー及び関係者にお礼申し上げる。



写真2 8月作業の風景

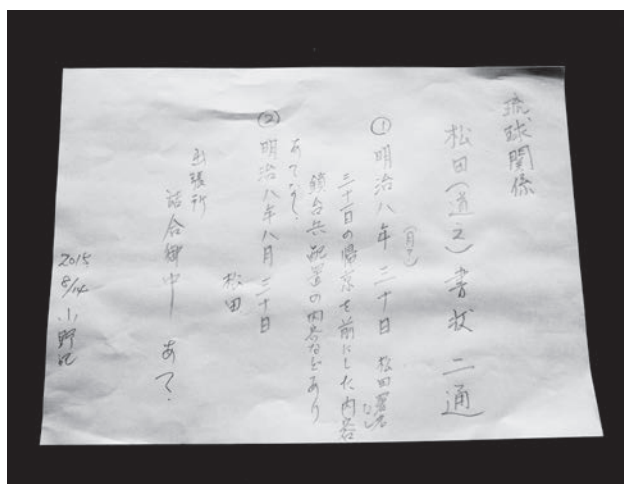


写真3 8月作業の成果



写真4 米子山陰歴史館にて